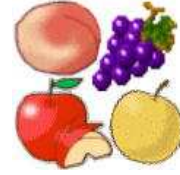




平成24年度 果樹情報 第11号

(平成24年8月17日)

福島県農林水産部農業振興課



1 気象概況 (8月1～3半旬：果樹研究所)

平均気温は1半旬が27.7℃で平年より1.8℃高く、2半旬が24.2℃で1.5℃低く、3半旬が25.8℃で平年より0.3℃高い状況でした。この期間の降水量は3.0mmで平年の4%でした。

2 土壌の水分状況 (8月15日現在)

果樹研究所における土壌水分 (pF値：無かん水・草生栽培リンゴ園) は、深さ20cmは乾燥により測定不能、深さ40cmが2.4、深さ60cmが2.6で乾燥状態にあります。

3 生育概況 (果樹研究所)

(1) モモ

ア 果実肥大 (8月15日現在)

果実肥大を暦日で比較すると、「ゆうぞら」は縦径が61.4mmで平年比94%、側径が60.6mmで平年比89%と平年より小さい状況です。

また、満開後日数による比較では、平年よりやや大きい状況です。

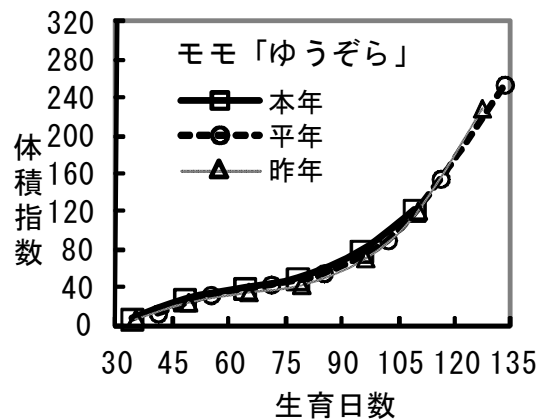


図1 モモの果実肥大 (8月15日現在)

イ 新梢生長 (満開後100日現在)

「ゆうぞら」の新梢生長は、新梢長が12.4cmで平年比95%とやや短く、展葉数は13.8枚で平年比96%とやや少なく、葉色は平年比101%と平年並みの状況です。なお、「ゆうぞら」の新梢停止は、平年より早い状況です。

ウ 中生品種の収穫期と果実品質

「あかつき」の収穫始めは8月7日で平年より5日遅く、収穫盛りは8月10日で平年より4日遅い状況でした。果実の大きさは平年より小さく糖度は高い傾向でした。

(2) ナシ

ア 果実肥大 (8月15日現在)

果実肥大を暦日で比較すると、「幸水」は縦径が65.9mmで平年比104%、横径が80.5mmで平年比102%とほぼ平年並み、「豊水」は縦径が63.3mmで平年比99%、横径が71.0mmで平年比99%と平年並みの状況です。

また、満開後日数による比較では、両品種ともに平年よりやや大きい状況です。

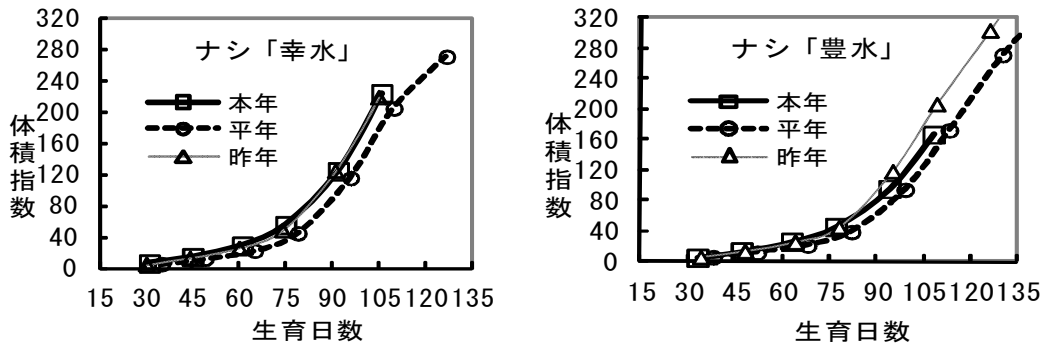


図2 ナシの果実肥大（8月15日現在）

イ 「幸水」の成熟経過（満開後104日現在）

8月13日における成熟調査の結果は、果実硬度が8.6ポンド、果皮中クロロフィル含量が13.0 $\mu\text{g}/\text{cm}^2$ （高い方が緑色が濃い）、糖度が10.8でいずれもほぼ平年並の状況でした。

(3) リンゴ

ア 果実肥大（8月15日現在）

果実肥大を暦日で比較すると、「つがる」は縦径が74.1mmで平年比105%、横径が82.9mmで平年比102%と平年よりやや大きく、「ふじ」は縦径65.8mmで平年比101%、横径が72.7mmで平年比101%と平年並みの状況です。

また、満開後日数による比較では、「つがる」は平年よりやや大きく、「ふじ」は平年並みの状況です。

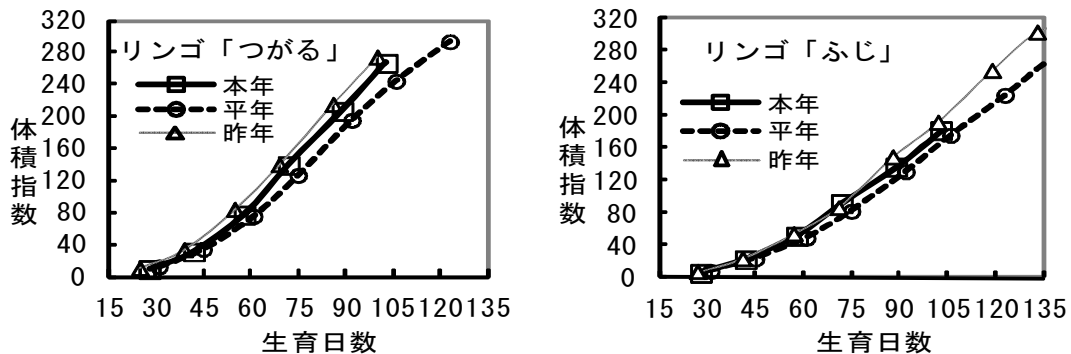


図3 リンゴの果実肥大（8月15日現在）

イ 「つがる」の成熟経過（満開後102日現在）

8月14日における果実品質は、硬度が17.0ポンドで平年より高く、デンプン指数は1.5で平年よりやや低く（低いほうが未熟）、糖度は10.3、リンゴ酸は0.32%の状況でした。

4 栽培管理上の留意点

(1) 共通

今後、降水量が少なく土壌が乾燥するような場合は、以下の対策を実施してください。

ア かん水

盛夏期における果樹園からの1日当たりの蒸発散量は、晴天日で6～7mm、曇天日で2～3mm、平均で4mm程度なので、1回のかん水は25～30mm程度(10a当たり25,000～30,000L)を目安とし、5～7日間隔で実施しましょう。保水性が劣る砂質土壌などでは、1回のかん水量は少なくして、かん水間隔を短くしてください。

モモでは収穫5～7日前以降のかん水は糖度など品質の低下につながりやすいので、かん水が必要な場合は早めに実施しましょう。

イ 草刈り

樹と草との水分競合を防ぐため、草生園では草刈りを行いましょう（草生園における地表

面からの蒸発散量は、草刈りをして刈り草をマルチした場合、草刈りしない場合の約半分とされます)。

ウ マルチ

刈り草や稲わらのマルチを行い、土壌水分の保持に努めましょう。なお、稲わらを使用する場合は、暫定許容値以下であることを確認したものを使用してください。

(2) モ モ

ア 晩生種の収穫前管理と収穫

中生品種同様、核障害の発生状況によっては成熟期の早まりが予想されるので、果実の成熟状況に注意し、適期収穫に努めましょう。さらに、着色期前の品種においては灌水を積極的に実施し、土壌水分の確保に努めましょう。

まもなく収穫期に入る「川中島白桃」などの晩生品種については、夏季せん定、支柱立てや枝吊り、反射シートの設置等収穫前の管理を計画的に実施しましょう。

(3) ナ シ

ア 「幸水」収穫の留意点

本年の「幸水」の成熟経過は、ほぼ平年並みの推移とされますので、収穫基準は例年通りとし、全農作成「幸水」用カラーチャートの1.5～2を目安に、適期収穫に努めましょう。なお、収穫時の果実温が高いと果肉軟化を促進し芯腐れ果の発生につながりやすいので、気温の低いうちに収穫し、収穫後は涼しい場所に保管しましょう。

「幸水」の品種特性として、降雨などにより急激に土壌水分が増加した後や収穫盛期以降は果皮のクロロフィル含量や果肉硬度の低下が急激に進むので、採り遅れのないように注意しましょう。

イ 「豊水」の修正摘果

「豊水」は満開後120日(果樹研究所8月27日)頃を目安に修正摘果を実施しましょう。着果過多は休眠期の紫変色枝枯症の発生要因とされているので、着果量は幸水並みの10a当たり10,000果を目安としましょう。

(4) リンゴ

ア 早生種の収穫前管理

「つがる」や「さんさ」では果面の30%程度が着色した頃から葉摘みを実施しましょう。

「さんさ」では、葉摘みが遅れると着色しにくくなるため、盆明け以降早めに実施してください。気温の高い日が続く場合には日焼け果の発生のおそれがあるため、果そう葉と新梢葉の2回に分けて実施してください。

イ 修正摘果

中晩生品種については、果実の大きさ、果形、サビ、日焼け症状の有無等をよく見て修正摘果を行いましょう。

ウ 早生種の収穫

「つがる」の収穫期は、今後の気温が高温で推移したり降雨が続いた場合、果実の成熟が進む可能性があるため、気象の推移に注意しながら地色の変化や果肉硬度を考慮して適期収穫を心がけましょう(果樹研究所における「つがる」(普通系)の平年の収穫始は8月29日、収穫盛は9月4日)。

(5) ブドウ

ア 収穫適期の把握

収穫時期は品種、地域、樹勢、房型や着房量によって異なってくるので、果皮色や食味(特に糖酸比)、香り等から総合的に判断し、適期収穫を心がけましょう。

イ 収穫方法

果実温が低いほうが日持ちが良くなるため、気温の低い時間帯の収穫を心がけましょう。また、収穫や調整の際に果房を直接手で持つと果粉が落ちて商品性が落ちるので、収穫後の調整を行う際には穂軸を持って扱いましょう。さらに、脱粒を防ぐために収穫後の果房の取

り扱いは丁寧に行い、コンテナ内に果房を重ねたり運搬の際に揺れてこすれないよう注意しましょう。

5 病害虫防除上の留意点

(1) 病 害

ア リンゴ褐斑病、炭疽病

褐斑病および炭疽病の感染、発病が増加する時期であるため防除を徹底しましょう。

イ モモ灰星病

降雨があると「川中島白桃」や「ゆうぞら」等の晩生種に対する灰星病の感染が助長されるため、収穫まで本病の防除を徹底しましょう。薬剤は灰星病防除剤（県病害虫防除指針参照）のいずれかを選択し、除袋後から間隔が空きすぎないように注意して散布しましょう。

ウ ナシ黒斑病

例年発病が多い園では予防散布を徹底しましょう。早生種が近接している場合には、薬剤の飛散に十分注意しましょう。

(2) 虫 害

ア モモハモグリガ

モモハモグリガ第5世代の防除適期は8月6半旬頃と考えられます。

本種の発生には無防除のハナモモ園や放任園などが影響していると考えられるので、無防除園における防除や放任園の伐採を行いましょ。

イ ナシヒメシンクイ

ナシヒメシンクイ第4世代の防除適期は、8月6半旬頃になると考えられます。

本種の第3世代以降はナシ果実への寄生が増加するため、例年ナシでの果実被害が多く、かつ近隣のモモ園で芯折れが多い地域では防除を徹底しましょう。

ウ モモノゴマダラノメイガ

中生種のモモで被害が見られた園では、8月20日頃までに晩生種に対する防除を行いましょ。本種はカキやクリなどにも寄生するため、被害が多いモモ園の近隣にカキかクリ園がある場合は、できるだけこれらのほ場の防除も徹底しましょう。

エ リンゴコカクモンハマキ

第3世代の防除適期は平年並の9月2～4半旬頃と考えられます。密度が高い場合は収穫後も防除を実施しましょう。

オ ハダニ類

高温乾燥条件が続く場合はハダニ類の急増に注意し、要防除水準（1葉に雌成虫1頭）の密度になったら速やかに防除を行いましょ。

カ カイガラムシ類

クワコナカイガラムシの第2世代幼虫の防除適期は9月中～下旬頃になると考えられます。合成ピレスロイド剤やネオニコチノイド剤等を多用している園地では、天敵類の減少によるカイガラムシ類の増加に注意しましょ。

表1 果樹研究所におけるモモハモグリガに対する防除時期の推定（平成24年8月16日現在）

今後の気温予測	第4世代成虫盛期	第5世代防除適期
2℃高い	8月26日	8月29日
平年並み	8月26日	8月30日
2℃低い	8月28日	9月2日

※ 演算方法は三角法による。起算日は8月7日。

病害虫の発生予察情報・防除情報

病害虫防除所のホームページに掲載していますので、活用してください。

<http://www.pref.fukushima.jp/fappi/>

農薬散布は、農薬の使用基準を遵守し、散布時の飛散防止に細心の注意を払いましょ。